

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200963
法人名	有限会社 富岡英語学院
事業所名	グループホームこしごえ
所在地	〒355-0327 埼玉県比企郡小川町腰越424-3 (電話) 0493-74-5411

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(平成21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤5人, 非常勤14人, 常勤換算9.6人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	9,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,200円		

(4) 利用者の概要(1月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀬川病院、日赤、嵐山病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに望む山々や、その周りの田園風景、またホームの庭に咲く花々など季節の移り変わりを感じさせる景色に囲まれて「グループホームこしごえ」は建っている。当ホームは、2ユニットの平屋造りであり、隣接する公園は、高齢者がゲートボールをしたり子供たちが遊ぶ場となっており、利用者の散歩途中の社交場でもある。ホームで開催する行事にはたくさんの地域住民やボランティアの参加があり、利用者の日常は楽しみなものになっている。また、運営推進会議では身近な福祉問題を議題に取り入れるなど、地域の認知症ケア、高齢者福祉などの情報発信の場としての役割を果たしつつある。ホーム長はじめ、管理者、職員のチームワークがよく、また近隣住民とかかわる機会も多く、地域に溶け込んだホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については職員全員に結果を報告するとともに、改善課題について話し合いを行った。市町村の連携については、運営推進会議の出席の実現や、担当者との関係作りなどにおいて著しい改善がみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で取り組むことで、ケアの振り返りや職員の意識の再確認ができている。また、外部評価の結果についても職員会議で報告をし、改善についても前向きに検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、区長をはじめとする地域住民、町役場の担当者、家族、職員の参加がある。議題もホームの運営に関するだけでなく、身近な福祉関連についても議題として取り上げ、ホームの運営に活かすとともに参加者の勉強会にもなっている。また、開催日をホームの行事と合わせることで、多数の参加がある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月利用者の暮らしぶりや健康状態などを記載した職員による手書きのお便りに写真を添えて送付している。また、3か月に1回家族宛のホーム便り「こしごえにゅーす」を発行しているほか、利用者に変化があった場合は電話などで報告している。面会時や行事参加時などには家族に声かけをし、意見や提案など出してもらえような雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議でも活発な意見などを出してもらい、管理者・職員で話し合いを設け、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、老人会などへの参加やホームで開催する行事に地元の人の参加を得るなど、地域に溶け込んでいる。利用者が近所の方とあいさつを交わすことも多く、知り合いの方や友達がホームに訪ねて来ることもある。また、認知症や高齢者のことについて地域の人が相談に来るなど、地域の人の福祉の情報交換の場ともなっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間としての尊厳を重視し、「家庭的で明るく楽しい生活」を謳い、安心して穏やかに暮らし続けることを大切に支援することを理念としている。		運営規定には「地域との結びつきを重視」との文言がある。ホーム長はじめ、管理者・職員には十分に浸透しており、事実それに向けた運営がなされていることから、理念にも地域密着型サービスの内容を盛り込むとより具体的になる。会議などで話し合いの場を持たれることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所などに理念が掲げられており、申し送り時などにも全員で理念を唱和している。また、サービス提供場面においても、管理者、職員の振り返りとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会などに参加したり、ホームでの行事に旧知の習い事の仲間をボランティアとして招くなど、地域に溶け込んでいる。利用者が近所の方とあいさつを交わすことも多く、知り合いの方がホームに訪ねて来ることもある。また、認知症や高齢者のことについて地域の人が相談に来ることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングを持ち、各評価項目について全員で話し合い、自己評価票を作り上げた。自己評価に職員全員で取り組むことで、ケアの振り返りや職員の意識の再確認ができています。また、職員会議で外部評価の結果について報告し、改善についても前向きに検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長をはじめとした地域住民、町役場の担当者、家族、職員などの参加を得て開催されている。会議の議題には、ホームの運営に関するだけでなく身近な福祉関連についても取り上げ、サービス向上に活かすとともに参加者の勉強会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから個別の相談に出向いたり、役場からは他の施設からの転居の仲介打診を受けたりしている。また、ケースワーカーによる定期的な訪問もあり、町との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の暮らしぶりや健康状態など職員による手書きの便りに写真を添えて送付し、3か月に1回家族宛のホーム便り「こしごえにゅーす」を発行している。また、家族の面会時にも報告するほか、変化時は電話で連絡している。金銭管理については立て替えとしており、毎月請求し、支払時領収書を渡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事への参加時などに声かけをし、意見や提案などを出してもらえよう雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議でも活発な意見など出してもらい、管理者・職員で話し合いの場を設け、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職は殆んどないが、新しい職員には引き継ぎなどに十分な期間をとっている。また、馴染みの関係が継続できるような支援体制を工夫し、利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ参加をするように努めている。研修場所が遠方の場合が多く、なかなか出向くことが難しい状況にあるが、近隣での研修については、勤務体制を工夫しながら参加をしている。また、参加した研修内容については報告会を行うことで職員全員が共有している。職員は勉強する意欲が高く、研修を受けることに前向きである。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加している。会議には出来るだけ参加し、見学に出向くなど関係作りに努めている。また、他の同業者からの見学を受けることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族や本人の見学から始め、環境の変化によるダメージを少なくするよう本人、家族、職員などで話し合いを重ねながらサービス利用につなげている。また、自宅まで出向いて聞き取りをしたり、要望があれば体験入居もできる環境にある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活中での会話や昔話などを通して職員は利用者から学び、それを喜びと捉え、支えあう関係作りを築いている。ケアの時などにおける利用者からの感謝の言葉などが職員の励みとなっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人の思いや求めることはそれぞれ異なることから、全員が同じことをするのではなく、その人の望む過ごし方ができるように本人の意向や希望の把握に努めている。また、本人の思いを汲み取れるように言葉や仕草など注意を払いながら支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々のかかわりの中で本人の思いを感じ取り、家族にも意見を求めている。また、提携の訪問看護師の意見を参考にするなどしながら、職員全員での意見交換を通して、その人らしく暮らせるような介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1度、介護計画の見直しを行っている。また、常にアセスメント表やモニタリング表を活用しながら、変化のある利用者についてはいつでも見直せるような体制をとっている。変化のない利用者に関しても、ケアカンファレンスの中で新たな支援の方法を話し合うことにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの理美容の利用や墓参りなど、できるだけ本人、家族の要望や状況に応じた支援に努めている。また、看護師の訪問により、医療を必要とする利用者もホームで生活している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、これまでのかかりつけ医にお願いをしている。通院が遠い場合や状態に変化がある時などは、家族と本人の同意を得て、協力医に変更となる場合もある。受診の結果については家族に報告をし、情報を共有している。歯科については本人が異変を訴えた時に往診をお願いしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合いを重ねるとともに、医師、家族、職員間で終末期に向けての方向性を話し合っている。また、状態に変化が生じた際や家族の面会時などに、再度話し合いを持つなどして意思の疎通を図っている。現時点では医療的な問題で看取りまでは対応できないが、住み替えの紹介をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人への言葉かけなどに配慮が見られる。また、トイレ誘導や入浴などの際にも本人のプライバシーを損ねないように対応している。記録などに関しては外部の人の目に触れないように取り扱いに注意し、書類などは鍵のかかる書庫に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、趣味活動や外出などでは職員間で調整しながら出来るだけ希望にそうように努めている。また、居間や廊下のソファで一人の時間を楽しんでもらったり、気の合う利用者同士の間と空間を作るなどの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の作る食事を利用者と職員が同じテーブルで食している。おやつもその日の雰囲気メニューが決まるなど、食べることの楽しみが演出されている。また、利用者はテーブル拭きや後片付けなどの役割が自然に決まっている。時には車で外食に出かけることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午後となっているが、利用者の状態により柔軟に支援している。足浴や清拭などを組み入れて、気持ちのよい清潔な支援を心がけている。身体機能低下時でも入りやすいように工夫された浴槽も併設されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除の手伝いなど役割が自然とできている。また、カレンダー作りやポスターの色塗りなど利用者の得意なものを取り入れた支援をしている。本人の希望を汲み取るような質問形式のゲームで、個別の支援につなげることも多い。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する公園に散歩に出かけ、子供たちやお年寄りのグループと交流している。町の行事やボランティアの交流会、外食などにも出かけている。また、ホームの庭にはたくさんの花が植えられており、ウッドデッキのベランダで日光浴を楽しむこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜のみ施錠をしている。その他にも外部に通じる出口にはチャイムを取り付け施錠はしていない。外出願望の強い利用者に対しては見守りを徹底し、職員と一緒に外出するように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いのもと防災訓練、避難訓練を行っている。地域にも呼び掛けるとともに、運営推進会議でも議題で取り上げ、協力を得られるようにしている。また、マニュアルを作成し、職員全員が確認作業を常に行っている。救急救命のAEDの使用法は代表の職員が講習を受けている。水の備蓄はしていない。		災害時には、断水等も考えられることから、水の備蓄が望まれる。服薬の情報も避難に備えたザックにまとめて入れておくといよい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師は病院での経験があり、作る食事はバランスのとれた献立である。一人ひとりに合った食事形態がとられており、かかりつけ医の栄養士による指導も受けている。また、食事、水分摂取量の記録があり、職員は利用者の状態を大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに手作りカレンダーや塗り絵、行事の写真など個性のある飾り付けがされている。吹き抜けの居間は明るく、廊下や居室の窓からは四季折々の風景を臨むことができる。また、木のデッキは日向ぼっこを楽しむ利用者の憩いの場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた小物や趣味の折り紙細工などが飾られている。仏壇が置かれている居室もあり、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。		